

第5章 活動事例集

本交付金を活用している活動組織による森林整備活動の内容を広く一般に紹介するため、活動事例集を作成した。活動事例集の作成に当たっては、まず今年度アンケート調査を実施した活動組織 1,990 団体の中から活動事例集への掲載にふさわしいと考えられる活動組織 10 団体を選び、現地において補完情報の聞き取り調査を行った。アンケート調査、聞き取り調査の結果より、当該活動組織の森林整備活動の内容を紹介する活動事例集を作成した。

5-1 概要

聞き取り調査は、今年度アンケート調査を実施した活動組織 1,990 団体の中から、活動事例集への掲載にふさわしいと考えられる活動組織 10 団体を選び、実施した。

聞き取り調査の概要を下表に示す。

表 5.1 聞き取り調査の概要

番号	活動組織名	所在地	実施日
1	硫酸山の森を育てる会	北海道 磯谷郡 蘭越町	平成 29 年 11 月 10 日
2	わたらせ薪倶楽部	群馬県 みどり市	平成 29 年 9 月 9 日
3	里山むつみ隊	千葉県 八千代市	平成 30 年 2 月 10 日
4	山中比叡平倶楽部	滋賀県 大津市	平成 29 年 12 月 19 日
5	高槻里山ネットワーク	大阪府 高槻市	平成 29 年 9 月 20 日
6	NPO 法人あいな里山茅葺同人	兵庫県 神戸市	平成 29 年 12 月 12 日
7	出西・里山再生の会	島根県 出雲市	平成 29 年 12 月 27 日
8	木沢みつまたクラブ	徳島県 那賀郡 那賀町	平成 29 年 9 月 6 日
9	竹やぶ掃除会	福岡県 糸島市	平成 29 年 12 月 26 日
10	山都町竹資源利活用協議会	熊本県 上益城郡 山都町	平成 29 年 8 月 31 日

活動事例集の作成に当たっては、アンケート調査と聞き取り調査の結果をもとに作成

を進め、必要に応じて適宜活動組織に事実関係の確認を行った。特に、掲載可能な連絡先及び写真については別途提供を依頼した。また、完成後、活動組織に掲載ページのイメージを送付し、内容確認を依頼した。

活動事例集の概要を下表に示す。

表 5.2 活動事例集の概要

項目	内容
名 称	平成 29 年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 活動事例集
事例集の構成	表紙、目次、掲載活動組織の所在地地図 活動事例紹介 1 団体 2 ページ
活動事例紹介 の 構 成	活動組織名／活動タイプ／活動場所／連絡先 団体の概要／活動内容／活動の工夫／活動の成果／今後の活動
掲 載 団 体	硫酸山の森を育てる会 わたらせ薪倶楽部 里山むつみ隊 山中比叡平倶楽部 高槻里山ネットワーク NPO 法人 あいな里山茅葺同人 出西・里山再生の会 木沢みつまたクラブ 竹やぶ掃除会 山都町竹資源利活用協議会

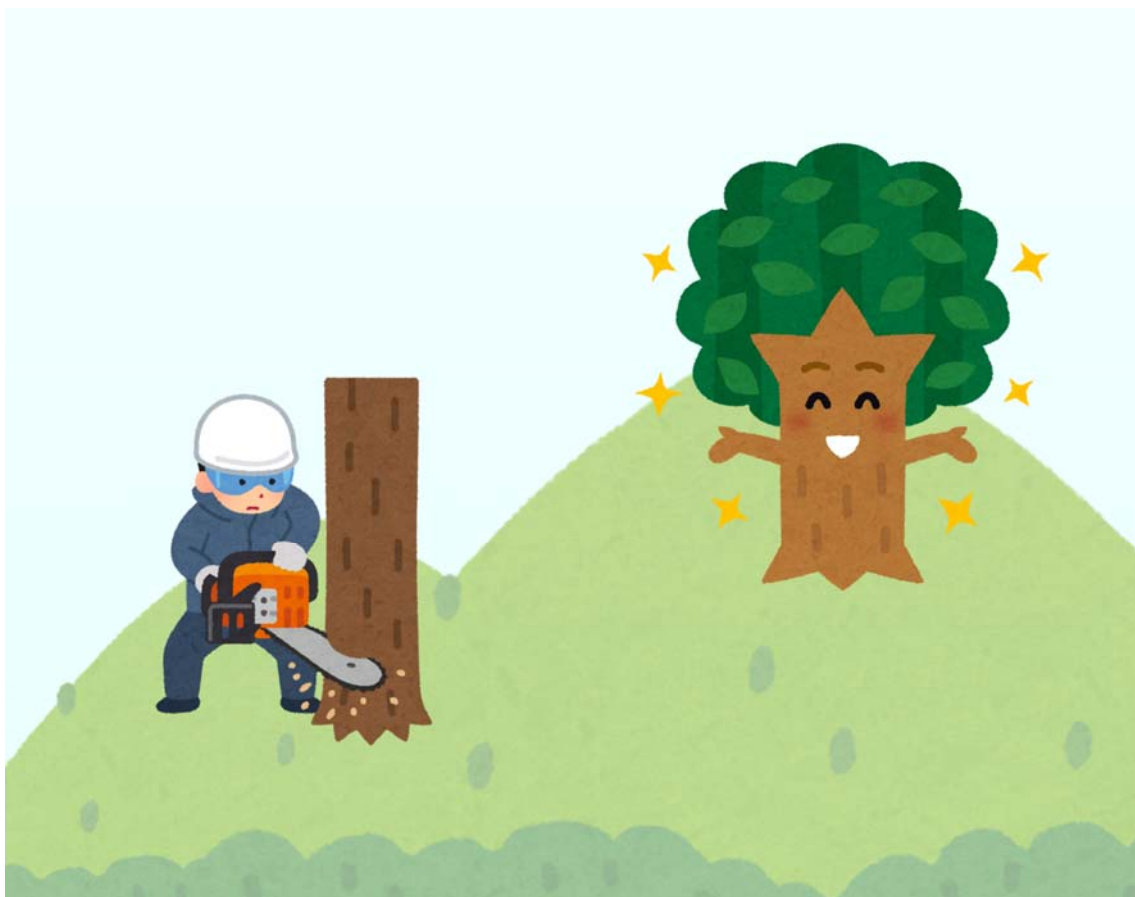
5－2 活動事例紹介

アンケート調査、聞き取り調査の結果より、今回選定した 10 団体の活動組織の森林整備活動の内容を紹介する活動事例集を作成した。

次ページより、活動事例集本編を掲載する。

平成 29 年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金

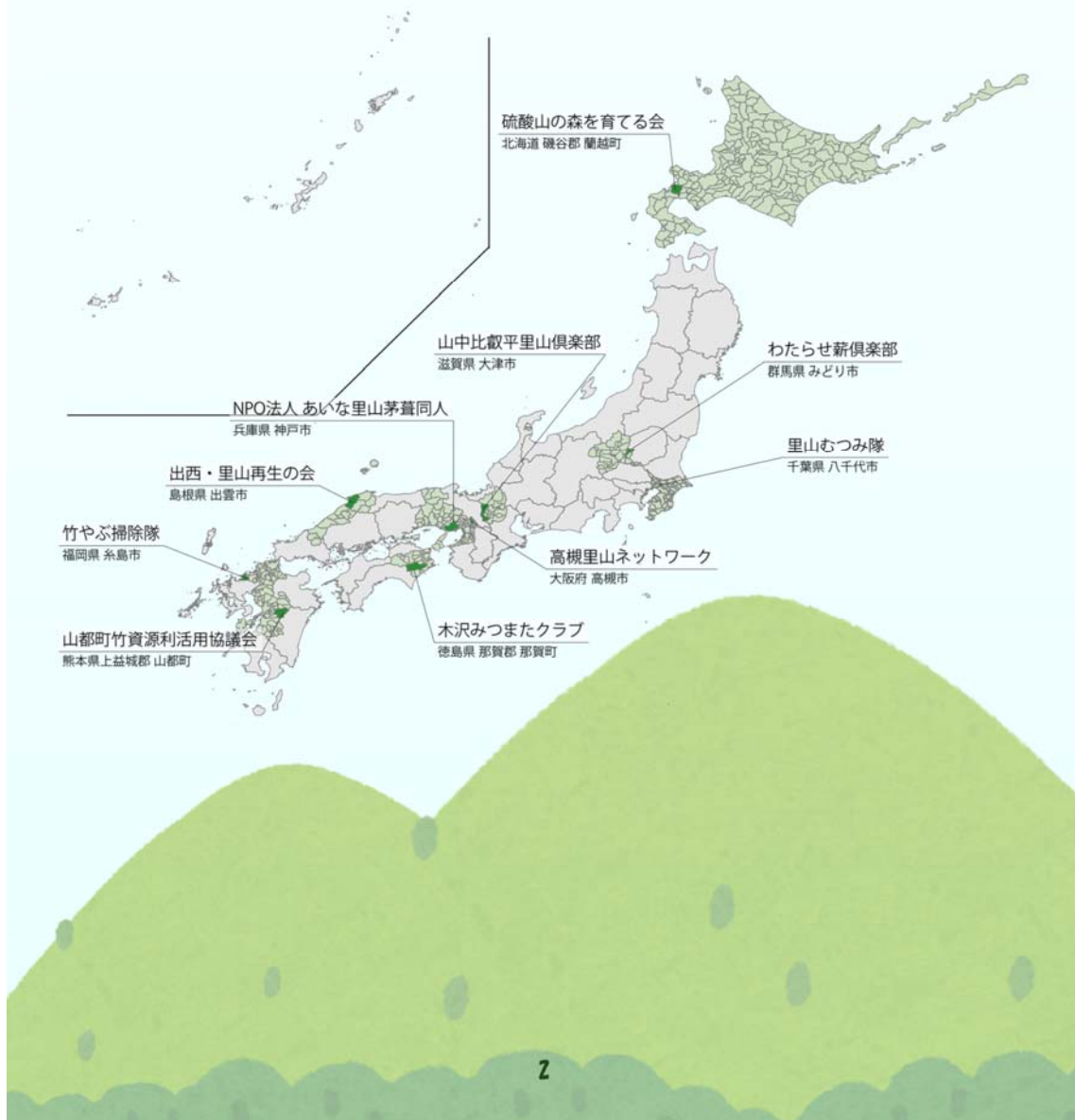
活動事例集



目次

掲載活動組織の所在地	2
1. 硫酸山の森を育てる会	3
北海道 磯谷郡 蘭越町 キーワード：地域交流、生物多様性の保全	
2. わたらせ薪倶楽部	5
群馬県 みどり市 キーワード：森林資源活用	
3. 里山むつみ隊	7
千葉県 八千代市 キーワード：市町村との協力、生物多様性の保全、荒廃竹林の整備	
4. 山中比叡平里山倶楽部	9
滋賀県 大津市 キーワード：地域交流、獣害対策、生物多様性の保全	
5. 高槻里山ネットワーク	11
大阪府 高槻市 キーワード：市町村との協力、地域交流	
6. NPO 法人 あいな里山茅葺同人	13
兵庫県 神戸市 キーワード：地域交流、生物多様性の保全	
7. 出西・里山再生の会	15
島根県 出雲市 キーワード：荒廃竹林の整備	
8. 木沢みつまたクラブ	17
徳島県 那賀郡 那賀町 キーワード：森林資源利用、獣害対策	
9. 竹やぶ掃除会	19
福岡県 糸島市 キーワード：荒廃竹林の整備、地域交流	
10. 山都町竹資源利活用協議会	21
熊本県 上益城郡 山都町 キーワード：荒廃竹林の整備、森林資源利用	

掲載活動組織の所在地



硫酸山の森を育てる会



活動タイプ

- ☒ 地域環境保全（里山）
- ☐ 地域環境保全（竹林）
- ☒ 森林資源利用
- ☒ 教育・研修活動
- ☐ 森林機能強化
- ☒ 機材及び資材の購入

活動場所

北海道 磯谷郡 蘭越町

連絡先

Eメール：watabonz@lime.ocn.ne.jp

団体の概要

当団体の活動場所である硫酸山は、1980年代に行われた大規模な土砂採取によって約3haの地表に黄鉄鉱（空気に触れると硫酸を生成する鉱物）が露出し、20年以上にもわたって植物が一切生えない不毛のはげ山になってしまいました。当団体の代表者は2004年にこの不毛地帯を含む約20haの山林の所有者となり、在来の森林を復活させる自然再生の取組を個人で行ってきました。

2015年に、蘭越町住民らが参加して団体を立ち上げ、上記のはげ山の自然再生や、その周囲にある手入れ不足となった里山林の整備を行うようになりました。団体の構成員は11名ですが、自然観察会などのイベント時には、町内外から毎回20～25名程度の一般参加があります。

活動内容

活動のテーマは二つあります。一つは、酸性硫酸塩土壌により不毛だった土地に当地在来の森林を再生すること。もう一つは、里山林として森林を再び利活用していくためのモデルをつくり、地域に発信していくことです。

活動地区全体を利用価値の高い里山林に育てていくため、歩道の整備や、トドマツ造林地における間伐、薪づくり、二次林における山菜の移植、キノコほだ木の設置などを行っています。

活動の工夫

町外からも元森林管理署森林官や林業イラストレーター、教師や学生など、多様な方々が参加しています。これらの知識豊富な参加者が、アドバイザーとして活動をサポートしています。

また、有機農家と有機農業を手伝いたい個人（ウーファー）とのマッチング・システムであるWWOOF（ウーフ）に登録し、国内外のウーファーを受け入れ、一緒に活動を行っています。



多様な人の参加による植樹活動



様々な国から来たウーファーたち

活動の成果

交付金を活用することで、はげ山の自然再生や景観の改善が進展しました。また、カタクリやキノコなど、数多くの森の恵みを、イベント開催などを通じて発見することができました。

特に、硫酸山自然再生では酸性硫酸塩土壌に森林を成立させる手法を確立させてきており、現在では先駆性樹種を主体とした若齢の森林が成立しつつあり、里山林のモデルになるように、タラノキやコシアブラなどの山菜を含む多様な在来樹木を植栽することが可能になりました。



活動開始当初（2004 年）



7 年後の同じ場所（2011 年）

今後の活動

活動組織代表が中心となり、町内や都市域からのボランティアの協力を得ながら、硫酸山の森林の保育・保全管理などの森林づくり活動、自然観察会等の森林教育活動、動植物調査も含めた森林生態系調査活動を継続していきたいと考えています。

また、地元での講演などによる活動の紹介を積極的に行い、特に自治会や地元集落にとって森林が身近で利用価値のあるものになるように働きかけていきたいです。

わたらせ薪倶楽部



活動タイプ

- ☐ 地域環境保全（里山）
- ☐ 地域環境保全（竹林）
- ☒ 森林資源利用
- ☐ 教育・研修活動
- ☐ 森林機能強化
- ☐ 機材及び資材の購入

活動場所

群馬県 みどり市

連絡先

TEL：090-3540-3467

URL：<https://www.facebook.com/watarase.firewood/>



団体の概要

当団体は、平成 26 年に本交付金を受けて発足しました。団体発足の中心となったのは、桐生市、みどり市の薪ストーブ愛好家です。みどり市や地元の森林組合が林業再生に本腰を入れる中、市民レベルでも森林資源を活用する動きを広げるために、現在は、会員数 19 名、公務員、教職員、会社員、退職者などで構成されています。

約 3.2ha の広葉樹林で活動をしています。この森林とは別に、薪の乾燥、伐採木の薪割場として 1ha の平場があるほか、隣接地の地権者から場所をご好意で提供していただき、活動拠点施設・土場などとして活用しています。

活動内容

初年度は、活動森林内の作業道づくりを行いました。

その後は、月 2 回の定例活動で、手つかずになっている里山林の管理を行っています。管理内容は立木の伐採、搬出、除伐などです。活動森林はかなり立木密度が高く、下草が生えにくい環境になっているため、下刈りの作業は行っていません。

持続的な活用・管理による里山林の保全と里山の未利用資源の活用推進を目指しています。伐採木は薪として積極的に利用し、循環型エネルギーの活用につなげています。

活動の工夫

市の広報誌「広報みどり」や新聞、テレビ番組等で活動を紹介していただいたことで、会員が増えました。また、ログハウス等の設計、施工、販売を行っている企業が主催するイベントに参加し、来場者向けに薪割体験会と活動のPRを行いました。当団体の活動が将来生業となればと思い、循環型エネルギーのことや山作業の楽しさを伝えるように心がけています。

また、若者や女性なども活動に参加しやすいように、フィールド隣接地に活動拠点と簡易水洗型トイレを整備しています。



間伐実施後の林内



隣接地につくった活動拠点

活動の成果

地域住民とのつながりが強まり、他の地域で伐採した広葉樹を薪として提供したいという話も出るようになりました。条件によりますが、そうした伐採木もありがたく提供していただいています。森林から得られた薪は、メンバーが利用する分と、販売する分とがあります。現在はメンバー内での消費の割合が大きいです。平成28年度は約10万円の販売売上がありました。



薪割作業の様子



薪の乾燥・仮置き場

今後の活動

平成29年度は、薪の販売売上20万円を目標としています。薪の販売を増やし、活動資金をより多く確保することで、交付金終了後も活動を続けていきたいと考えています。

手つかずの森に手を入れて、かつてのような持続的な里山林の活用を復活させることで、里山自体の多面的機能も高め、山自体を良くする活動を展開していきたいと思います。

里山むつみ隊



活動タイプ

- ☒ 地域環境保全（里山）
- ☒ 地域環境保全（竹林）
- ☐ 森林資源利用
- ☐ 教育・研修活動
- ☐ 森林機能強化
- ☒ 機材及び資材の購入

活動場所

千葉県 八千代市

連絡先

Eメール：yama-ne@cilas.net（事務局長 山崎）

団体の概要

当団体は、八千代市が主催する「里山ボランティア人材育成講座（里山楽校）」の第一期修了生が主体となって平成24年3月に設立した団体です。「八千代市の豊かな自然を次世代に繋ぐ」をスローガンに、数十年手入れがされずに荒廃した市内北部の森を緑豊かな森として保全・整備することを活動方針として、毎月2回活動しています。現在は里山楽校第二期以降の修了生もメンバーに加わり、出身地も経歴も年齢も様々な人材で構成されています。現在、4つの森林（および竹林、うち3つが交付金対象）で整備活動を行っています。そのうちの1つ、「むつみの森」周辺は、平成27年12月に環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されました。

活動内容

「むつみの森」（1.7ha）では、生物多様性の保全に配慮して、森林外からの植物の持ち込みは行わず、森林内にある種子や実生を利用した里山再生を行っています。密集した樹木の除間伐や倒木処理、ササの下刈りなども行っています。「こぶしの森」（0.8ha）では、サクラやモミジを植林して、市民が遊んだり、休んだりできるような森林を目指して整備しています。竹林（0.3ha）は、整備前は数十年手付かずのマダケ・モウソウチクが混交した竹林でした。良好な景観を再生し、タケノコを利用できる竹林にすることを目指して整備を行っています。

活動の工夫

楽しく活動できること、安全で事故がないこと、達成感が得られることの 3 つのポイントに配慮して活動を行っています。チェーンソーや刈払機の使用における安全管理については、講習の受講や保険の加入、装備、作業方法などの約束事をミーティングで話し合い、取り決めていきます。地域行事に参加して交流を深めることも、当団体の活動が地域に認知されるために大切です。



活動森林内の資源を活用して作った東屋



地域行事へ積極的に参加

活動の成果

森林整備により、多くの野草が蘇りました。市内外の植物観察グループと連携して植生調査を行っており、マヤラン（環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類）やサイハイラン（八千代市水辺の自然環境調査報告書で「絶滅の可能性が高い種類」）など 15 種の絶滅危惧種が確認されました。

交付金を活用して整備したむつみの森は、近隣の小中学校の里山体験学習の場としても活用されています。里山体験学習に参加した中学生がむつみの森を題材にした作文を書き、平成 27 年度「地域の誇り」表現コンテスト（主催：千葉県）の中学生の部で最優秀賞を受賞しました。森林の価値や森林整備の取組が、子どもたちを通じて、地域住民や市民等に理解されてきています。



活動森林内で確認されたマヤラン



中学生を対象とした里山整備体験学習

今後の活動

交付金終了後も、活動を継続し、整備する森林を増やしていきます。団体メンバーの高齢化と担い手不足が課題ですが、八千代市が主催する里山楽校とも連携して、里山整備活動を学ぶインターンを受け入れるなどの活動を行い、里山に関わる人材を育てていこうと考えています。

山中比叡平里山倶楽部



活動タイプ

- ✓ 地域環境保全（里山）
- ✓ 地域環境保全（竹林）
- ✓ 森林資源利用
- ✓ 教育・研修活動
- ✓ 森林機能強化
- ✓ 機材及び資材の購入

活動場所

滋賀県 大津市

連絡先

TEL：077-529-1301（田畑）

URL：<http://hieidaira.town-web.net/satoyama/>

団体の概要

当団体の活動拠点である大津市山中比叡平地区は、比叡山の南麓、大文字山の東に位置し、高台の住宅地周辺には斜面林が広がっています。この里山に放置されるゴミの撤去活動をきっかけとして、平成 24 年に当団体を設立しました。

現在は、里山の保全活動、生産活動並びに植林を行っています。人手が入らなくなり、荒廃していた里山を、地域住民が愛着を持てる里山に変えることを目的としています。

活動フィールドは不動産会社が所有する 6ha の森林で、同社と協定を結んで活動しています。

当団体の構成メンバーは、現在約 70 名で、地元在住の 60～70 歳代がメインとなっています。その他、地元の住民や小学生などに、イベントに参加していただいています。

活動内容

交付金を活用した主な活動は、森林管理活動（間伐、除伐、植樹、枯れ木の除去など）、散策路の整備、イベント（花見会、散策など）開催などです。毎週月曜が定例活動日となっています。

森林管理活動を通じて、本来この地域に自生するカツラ、トチノキ、オニグルミなどの樹木が生育する環境を整備しています。持続的な管理のため、伐った木は薪や炭として活用しています。

さらに、シカやイノシシによる食害、マツ枯れ・ナラ枯れ被害への対策も講じています。

活動の工夫

生き物調査を行ってきており、野鳥やリスが住み着いたこと、サワガニやクワガタの採集を楽しめることがわかりました。調査結果は、冊子「山中比叡平の生き物」にとりまとめました。

今年度から始まったモニタリング調査についても、専門家に助言をいただくなどして、ユニークな調査方法を取り入れていきたいと考えています。植生調査など一部の調査には、地元小学生にも参加してもらい、里山の生き物に愛着を持ってもらう機会にしたいと考えています。



冊子「山中比叡平の生き物」



コナラの巨木伐採後の植生変化をモニタリング

活動の成果

活動森林にはシカ、イノシシ、ダニ、ヤマビルが非常に多く見られていましたが、交付金を活用して柵や獣害防止ネットなどを設置することにより、これらの侵入を防ぐことができています。

森林管理への参加は、里山の整備だけでなく自身の健康維持にもつながります。また里山整備で出た材を使ったツリーハウスで子どもと遊んだり、参加者同士の絆を深めたりすることもできます。近隣の住民の間で、里山ファンが徐々に増えており、そのことが何よりの自慢です。



獣害防止ネットの設置状況



子どもたちが遊ぶツリーハウス

今後の活動

里山の保安全管理活動は長期間の継続を要する活動です。本交付金の終了後も、可能な限り活動が続けていきたいと考えています。活動のための財源としては、諸団体の助成金の活用や、活動によって生産した薪や炭の販売収益などを考えています。薪や炭の販売収益は、現在はまだ少額であるものの、今後計画的に増やしていくことを目指しています。

高槻里山ネットワーク



活動タイプ

- ☒ 地域環境保全（里山）
- ☒ 地域環境保全（竹林）
- ☐ 森林資源利用
- ☒ 教育・研修活動
- ☒ 森林機能強化
- ☒ 機材及び資材の購入

活動場所

大阪府 高槻市

連絡先

Eメール：y-nakano@rose.plala.or.jp

URL：http://www001.upp.so-net.ne.jp/satoyama/

団体の概要

当団体は、高槻市が呼びかけた森林ボランティアへの参加者を母体として、平成 14 年 9 月に設立されました。設立時の目的は「人と里山の新たな関係づくり」です。平成 25 年度から本交付金を活用し始めました。

高槻市の推薦と支援を得て、メインの活動拠点である楊梅山国有林を含めて 5 箇所の森林で活動を行っています。楊梅山国有林は、その全面積のおよそ半分にあたる 38ha が活動対象地です。森林管理事務所と利用協定を結んで活動しています。森林は自然林と人工林が半々です。

会員は現在 71 名で、会社員、主婦、退職者など多様な参加者で構成されています。

活動内容

安全第一、楽しく活動することをモットーに、月 5 回程度、雑木林や竹林の間伐作業や下草刈りを行っています。また、会員の意見を取り入れつつ、森林内に散策路、展示林、広場、ピクトープを作っているほか、竹炭や草木染めなどの資源利用も進めています。草木染めを行う女性を中心とした女子会活動も始まっています。

さらに、自然環境教育として体験学習や生物調査、タケノコ掘り等を行っており、これらの教育活動や観察会を通して、里山の大切さを広くアピールしています。

活動の工夫

会員の意見を取り入れた多様な活動内容にすることを心がけています。また、活動予定の連絡、情報誌の発行などのこまめな情報発信を行うことで、年々参加者数が増加しています。参加者が増えることで、年間の活動できる日数も増えるなど、活動の幅が広がっています。

多様な主体と連携した取り組みも進んでいます。活動場所の一つには、企業が取得した竹林もあり、その場所での竹林管理作業は同社社員と協働して実施しています。また、本交付金の活動の際に伐採した竹は、高槻市と一緒に、七夕の笹として市民に配布しています。



活動への参加者は年々増加



伐採した竹は七夕の笹として配布

活動の成果

森林整備活動は本交付金の取得前から行っていましたが、交付金を活用することで、安全な活動に必要な資機材・消耗品を確保できました。これによって、森林整備活動を安全かつ効率的・効果的に行うことができるようになりました。

平成 27 年度には「ふれあいの森林づくり」国土緑化推進機構会長賞を受賞しました。また、国有林などの森林保全に対する貢献によって、平成 29 年に林野庁から感謝状を受け取りました。



活動に必要な資機材や保管庫は交付金で購入



林野庁の感謝状

今後の活動

交付金終了後も現在の活動内容を引き続き継続して実施していきます。ヤマモモやクスノキなどの多様な樹木が生育する森林の保全、松食い虫被害に遭ったアカマツ林の再生を目指しています。豊かな里山を次の世代に引き継いでいきたいと考えています。

NPO 法人あいな里山茅葺同人



活動タイプ

- ☒ 地域環境保全（里山）
- ☐ 地域環境保全（竹林）
- ☐ 森林資源利用
- ☒ 教育・研修活動
- ☐ 森林機能強化
- ☐ 機材及び資材の購入

活動場所

兵庫県 神戸市

連絡先

Eメール：hoshijima281074@gmail.com

URL：http://www.biopark.asia/kayabuki/

団体の概要

甲南女子大学（兵庫県神戸市）のキャンパス裏手には、「ふれあいの森 里山体験フィールド」と呼ぶ約 2ha の里山林があります。当団体はこの里山林をフィールドとして、平成 20 年度に活動を始めました。大学からも活動資金の助成を受けていますが、整備活動やイベントなどの運営資金、人件費や資機材の購入資金確保のために平成 25 年度から本交付金を活用し始めました。

現在、当団体には、60 歳以上の定年退職者を中心として主婦や会社員などの 15 名程度のメンバーが参加しています。

活動内容

里山景観を再生すること、イベント開催等を通じて循環型社会形成や自然環境改善に寄与することを目的としています。具体的な取組として、週 2 回定期的に行っている間伐・除伐、ササ刈り、シイタケ栽培などの里山保全活動、講演会やセミナー、環境イベントの開催などを行っています。

将来、この学習林を自然教育や環境教育のために、近隣の幼稚園や小学校の子どもたちが利用できるようにし、住民が気軽に自然と親しみながら、自然環境の保全について考える場とすることを目指して活動を行っています。

活動の工夫

活動場所はコナラやアベマキなどの落葉樹が中心の里山林ですが、大径木が多く、ナラ枯れ被害や伐倒に伴う事故のリスクが大きくなっています。ナラ枯れ被害を防ぐため、昨年度からは神戸市建設局と協力して現地調査を行い、方策を協議しながら森の若返りを図っています。

大径木の伐倒時に想定外の方法に倒れ、掛かり木になった場合は、安全面を最重視し、メンバー間の入念な打合せのもと、ウィンチを利用して引き出しています。また、住宅地との境界など安全確保に懸念がある場合は、大学と相談して専門業者に依頼するなどの対応を行っています。



里山整備後の森林



樹木の伐倒と運搬

活動の成果

交付金活動を通じて整備された里山林が、近年大学と地域住民との交流の場として利用されるようになり、さらに多様な活動へと広がっています。また、住宅地と隣接する高木を伐採することで近隣住民からも感謝されています。

活動中に、兵庫県版レッドリストでCランク（準絶滅危惧相当）に指定されている植物「オケラ」を見つけました。交付金活動による間伐・除伐が林内を明るくし、オケラの生育を良くしています。今年度から、この生育域の維持・拡大を目標としたモニタリング調査を開始しました。



地域交流を兼ねた森づくり体験



オケラ

今後の活動

交付金期間終了後も活動を継続したいと考えています。そのためには継続的な資金の確保が必要であり、大学からの資金提供を利用するとともに、さらなるスキルアップを図っていきます。

しゅっさい

出西・里山再生の会



活動タイプ

- ☐ 地域環境保全（里山）
- ☒ 地域環境保全（竹林）
- ☐ 森林資源利用
- ☐ 教育・研修活動
- ☐ 森林機能強化
- ☒ 機材及び資材の購入

活動場所

島根県 出雲市

連絡先

Eメール：maoki002@gb4.so-net.ne.jp

URL：http://www.geocities.jp/maoki02_0401/index.html



団体の概要

当団体の母体は、会員約 200 名を擁する島根自然保護協会です。島根自然保護協会は、竹林の拡大に対する危機感から、荒廃した竹林を整備することを目的として、平成 26 年に当団体を発足させました。当団体の活動には、地主をはじめ地元住民（農家が多くを占める）に加え、前述の島根自然保護協会の事務局員も参加しています。

活動フィールドはモウソウチク、マダケ、ハチクが繁茂する 2.5ha の荒廃竹林（斜面林）です。この場所は昭和 30 年頃まではアカマツが主体の里山林でしたが、マツクイムシの被害でアカマツが無くなったため、近接地（麓部）から竹が徐々に侵入し、全体的に広がったものです。

活動内容

地域環境保全タイプの活動フィールドとして、広葉樹林を目指す「里山林エリア」と、タケノコが採れる竹林を目指す「タケノコ林エリア」に区別しています。里山林エリアでは、竹を皆伐、搬出し、伐採跡地へヤマザクラ、コナラ、クリ、スダジイ、マテバシイなどを植栽しています。タケノコ林エリアでは、立竹密度 2,500 本/ha を目安とした伐採等の整備を行っています。

また、作業道の作設や、粉砕機をレンタルしての伐採竹のチップ化も交付金を活用して行っています。生産したチップは肥料用として地域住民に配布しています。

活動の工夫

交付金活動の1年目は竹林内に架線を張り、伐採竹を架線に吊り下げて竹林の外まで搬出していました。しかし、このやり方は余分な労力がかかる上、作業効率も上がりませんでした。そこで、2年目から、架線の代わりに作業道を作設することにしました。さらに、伐採竹をそのまま搬出するのではなく、作業道を使って粉碎機付きトラクターを伐採現場近くまで入れ、伐採竹を全てその場でチップ化しています。これにより、伐採竹の処分にかかる労力を削減できました。

また、町内の情報専門学校に依頼して、ドローンで活動フィールドを上空から撮影してもらっています。この写真を用いて、竹林整備の進捗や作業道の整備状況を把握しています。



伐採竹をフィールド内でチップ化



ドローンにより上空から森林を撮影

活動の成果

活動フィールドは5つのブロックに分けていますが、里山林エリアと位置付けた4ブロックについては竹の皆伐を進めています。そのうち、2ブロックは皆伐、1ブロックはほぼ皆伐、1ブロックは約半分の伐採が完了しました。地下茎から新たに発生する竹も継続的に伐採しています。タケノコ林エリアと位置付けた1ブロックは理想の立竹密度に近づいています。タケノコの発芽も順調で、島根自然保護協会や地元の保育園・幼稚園の体験活動に活用されています。



平成12年当時の竹林



左写真と同一地点における現在の整備状況

今後の活動

将来的には、年代を問わずに自然観察、山遊び、タケノコ掘り体験などが楽しめる癒しの空間となるように里山林を整備していきます。

木沢みつまたクラブ



活動タイプ

- ☒ 地域環境保全（里山）
- ☐ 地域環境保全（竹林）
- ☐ 森林資源利用
- ☐ 教育・研修活動
- ☐ 森林機能強化
- ☒ 機材及び資材の購入

活動場所

徳島県 那賀郡 那賀町



連絡先

住所：徳島県那賀郡那賀町沢谷字井元 34 番地
TEL/FAX：0884-65-2022

団体の概要

当団体は、平成 25 年に、林業への鳥獣害の軽減を図ることを目的に設立されました。設立のきっかけは、サル、シカ、イノシシなどによる農林水産業被害が深刻化・広域化するなかで、低木の「ミツマタ」だけがシカに食害されていない様子に気がついたことでした。ミツマタを利用すれば鳥獣害を防げるのではないかと考え、ミツマタの植林を行う団体として、地域住民と地元の林業グループとで当団体を設立しました。本交付金は、平成 25 年度から活用しています。

主要なメンバーは現在 22 名で、森林所有者、林業従事者、退職者などから成っています。

活動場所は、那賀町木沢の沢谷地区を中心とした約 31ha の森林です。団体会員自身が所有する森林の他、町内の会員以外の方の所有地や、町有林（約 2ha）でも活動を行っています。

活動内容

地域環境保全タイプの交付金を活用した活動として、まずは作業道の整備や雑草木の刈払いなどの里山整備を行いました。整備後は、ミツマタの植林体験を通じて地域住民と都市住民の交流を促進しており、地域の活性化を図っています。

ミツマタ栽培を通じて、食害により裸地化した土壌の流出を防ぐ森づくりを目指しています。また、3～4 月に黄色い花を咲かせるミツマタによる美しい景観の創出も目指しています。

活動の工夫

当初はミツマタの栽培ノウハウも種子も苗木もありませんでしたが、様々な組織と協力関係を築き、解決しました。ミツマタの栽培・加工に関するノウハウは、国立印刷局の四国みつまた調達所から加工の技術指導を受けたほか、徳島県池田町のミツマタ栽培農家からも様々な助言をもらっています。さらに、徳島文理大学の薬学部でミツマタの成分研究をいただいているほか、徳島県山岳連盟には年に複数回下刈り、植栽、除伐などの作業に参加いただいています。



シカ食害によりミツマタだけが残る森林



観光資源としてミツマタを維持している場所

活動の成果

ミツマタは皮が紙の原料に、皮を剥いだ後の枝が生け花の材料になります。現在は、ミツマタの皮を加工して、地元の農協を通じて印刷局に販売しています。

NHKからの取材を受け、テレビで放映された後は、参加者が増え、鳥獣害に悩む県内外の森林組合や農家の方々が視察に来るようになりました。

ミツマタの収穫や皮むきなどの作業は誰でも携われるため、高齢者の活躍の場ともなっています。



ミツマタの皮を乾燥させている様子



生け花に利用されるミツマタの枝

今後の活動

今後は、収穫や加工の効率化を図り、ミツマタの販売を収益ベースに乗せたいと考えています。また、ミツマタの花が咲く景観や、紙づくり加工体験などのプログラムを通じて、ミツマタを観光資源としても活用していくことを検討しています。

竹やぶ掃除会



活動タイプ

- ☐ 地域環境保全（里山）
- ☒ 地域環境保全（竹林）
- ☐ 森林資源利用
- ☒ 教育・研修活動
- ☐ 森林機能強化
- ☐ 機材及び資材の購入

活動場所

福岡県 糸島市



連絡先

TEL：080-5211-6828（曲淵）

Eメール：buchi777@mopera.net（曲淵）

団体の概要

かわばる

私たちが活動する川原行政区では、林業およびタケノコ生産活動の衰退に伴い、管理放棄された竹林の拡大が問題となっています。竹林の拡大によって、道路の見通しが悪くなり事故の危険が増える、イノシシやアナグマの集落への出没が増えるなど、まさしく「藪の中の集落」という状況でした。これらの状況を改善するため、平成 27 年 4 月、自治会の総会で管理放棄された竹林の伐採による景観改善に取り組むことを決定し、当団体を設立しました。

当団体は、川原行政区の自治会員が主な構成員となっており、通常の竹林管理作業は自治会員の有志 9 名で行っています。

活動内容

地域環境保全タイプの活動として、対象竹林の除間伐、皆伐等を行っています。作業開始前に地権者会議を開催し、そこで地権者と確認して決めた伐採割合に従って、竹木を伐採しています。伐採した竹は竹チップ加工用として民間会社に販売し、伐採した木は薪として利用・販売しています。伐採跡地へは広葉樹の植樹を進めています。これらの活動をより確実、安全に実施するため、チェーンソー取扱講習会や、樹木の伐倒方法の研修会を実施しています。

その他、伐採した竹の有効活用のため、竹灯籠づくり研修会なども行っています。

活動の工夫

伐採した竹は、資源として有効活用するため、竹チップを製造する民間会社へ販売しています。この販売先の民間会社は、糸島市に紹介していただきました。

この他にも、糸島市から様々な協力を受けています。例えば、糸島市の森林整備計画や林班図などを提供していただいています。また、伐採後の竹林再生を防ぐため、跡地への樹木の植栽を行うことを計画していますが、植栽用苗木の購入費用についても、糸島市から民間企業による助成事業を紹介していただきました（最終的に助成は活用せず）。



集落の道沿いに繁茂する竹林を伐採



伐採した竹は民間会社へ販売

活動の成果

竹林から広葉樹林への転換によって景観が改善されています。見通しが良くなり、明るくなったことで、地域住民からも安心して歩けるようになったなどの声をいただいています。景観改善に加え、伐採した竹の販売、伐採した木の薪利用などの活動が進展しているのも成果です。

竹灯籠づくり研修会や里山体験会の開催も地域住民の方から好評を得ており、コミュニティの活性化に寄与しています。こうした活動を通じて、森林に目を向け、関心を持ってくれる人が増えているのを感じています。



見通しの良くなった集落内



地域住民参加で作成した竹灯籠

今後の活動

これまで同様、活動資金の調達手段の一つとして、竹や薪を販売しながら、交付金期間終了後も自分たちのできる範囲で活動を継続していきたいと考えています。

山都町竹資源利活用協議会



活動タイプ

- ☐ 地域環境保全（里山）
- ☒ 地域環境保全（竹林）
- ☐ 森林資源利用
- ☐ 教育・研修活動
- ☐ 森林機能強化
- ☒ 機材及び資材の購入

活動場所

熊本県 上益城郡 山都町

連絡先

TEL/FAX：0967-72-1550



団体の概要

当団体は、平成 24 年 12 月に、竹資源の生産から加工、販売まで行う 6 次産業化を目指すことを目的に組織されました。竹林管理を行いつつ、町の基幹産業である農業を中心とした様々な分野で、竹資源の利活用を推進しています。本交付金は、このような団体の設立目的に合致していたため、平成 27 年度から活用するようになりました。

団体の会員数は約 30 名で、農業従事者が主ですが、森林所有者なども含まれます。近年は、有機農業などに関心を持つ若者移住者にも参加を呼び掛けています。

活動場所は、山都町内の竹林。山都町内には約 1300ha の竹林がありますが、島木地区の 40ha をはじめとして、10 程度の地区の竹林を対象に活動しています。

活動内容

地域環境保全タイプの交付金を活用した活動として、獣害や管理放棄等により荒廃した竹林において、竹の皆伐・間伐を行っています。荒廃竹林の中に林道を整備し、竹の除去や、タケノコの生産も行っています。

交付金以外の活動として、竹林整備で出た竹材を同一地区内の竹粉工場へ運び、農業用の土壌改良材や発酵促進剤、畜産や水産等の資料、ぬか床などに使える竹粉へと加工、販売しています。

活動の工夫

竹の伐採は毎年7月末から翌年3月頃まで実施しますが、竹林管理作業の頻度は、各地区の条件（面積、地形、繁茂状態など）や整備方針（間伐するのか皆伐するのかなど）によって異なります。整備方針は、活動を行う竹林の地権者の意向を確認して決定しています。

竹粉がもつ効果に関する実証実験を、熊本県立大学と連携して行っています。実証実験では、農作物の味や成長が良くなり、日持ちもするという結果が得られました。竹林整備の従事者だけでなく、実証実験の協力者や、竹粉の利用者などがいてこそ持続的に活動できているといえます。



日本に3台しかない竹粉砕機（他事業で導入）



大学と協力して行った竹粉の効果実証実験

活動の成果

交付金活用による成果としては、竹林景観の改善やタケノコが採れるようになったことが挙げられます。交付金とは別ですが、竹を利用した6次産業化の進展は当団体の誇る成果です。竹を粉砕、発酵させてつくった竹粉を商品名「山都竹琉：ヤマトタケル」として販売しています。土壌改良に竹粉を使用した地域ブランド米「かくや米」は、ふるさと納税の謝礼になっています。



竹林伐採後の様子



竹発酵パウダー「山都竹琉：ヤマトタケル」

今後の活動

今後も、竹粉および竹粉を使用したヤマトカグヤ野菜の販売拡充など、6次産業化に取り組めます。特に地域への貢献を意識し、資源循環とコミュニティビジネスの推進を目指しています。

一方、新たな担い手の確保が課題としてあります。実証実験による客観的・科学的なデータに基づいて活動を行うことが、若い人に対する活動のアピールにもなると考えています。